

## 平成29年度第1回福島県総合教育会議 議事録（概要）

1 日時	平成29年8月4日（金） 午前10時30分～午前11時25分
2 場所	コラッセふくしま 4階 401会議室
3 出席者	知 事 内堀 雅雄 教育長 鈴木 淳一 教育委員 小野 栄重 蜂須賀 禮子 岩本 光正 浅川 なおみ
4 議事内容及び経過	<p>(1) 開会 事務局（政策調査課長）</p> <p>(2) 議題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">＜ 「頑張る学校応援プラン」の主な取組の進捗状況について ＞</p> </div> <p><b>【知事】</b> 議題1は、「頑張る学校応援プラン」の主な取組の進捗状況について。このプランは、これまでの総合教育会議においても、委員の皆さんから様々な御意見を頂き、それらを踏まえた形で今年の3月に公表されたところ。 現在、プランの内容に沿った具体的な取組が進められているが、その進捗状況について説明を行った上で、意見交換に移りたいと思う。</p> <p style="text-align: center;">－ 教育総務課長から資料1-1に基づき説明後、以下のとおり、意見交換 －</p> <p><b>【教育委員】</b> 資料の主要施策3「地域と共にある学校」について、地域の方々と子どもたちの関わり方が重要だと思うが、外からの視点を取り入れることも大事であることから、地域の方だけではなく、外部の方にコーディネーターをお願いすることを検討してもよいのではないかと。 また、主要施策4の「ふくしまの未来に向けた創造的復興教育」に関して、今年の4月に小高産業技術高校が開校して、町が明るくなったという声が聞こえてくる。子どもたちに期待する面が大きいと感じる一方、伸び伸びとした学校生活を送ってもらうためには、どうしたらいいのかということを考えていく必要があると思う。</p> <p><b>【教育委員】</b> 主要施策1の「学力向上に責任を果たす」に関して、小学校の高学年では、専門的な知識の習得も必要になることから、教科担任制を取り入れるということは、非常に良いことだと思う。 また、中学校においては、一年生が三年生の勉強に取り組む姿勢を見て、学習意</p>

欲を高めるといったことなどもあり、縦の関係も重要と考えられることから、複数学年のクラスを一貫指導する「縦持ち」の取組については、積極的に進めていくべき。

算数、数学等に関しては、県教育庁内に学力向上支援チームを設置して、各学校への指導・助言を行っているが、福島県の算数、数学の学力が全国に比べて低い原因は、幼児教育において、これらの基礎に係る教育が不足しているのではないかと考えており、他県ではどのような幼児教育を行っているのかを知る必要があるのではないかと考える。

主要施策2の「教員の指導力、学校のチーム力の最大化」の中で、教育庁と福島大学が連携し、キャリアパスに応じた教員育成指標を策定するとあるが、教員が様々な経験を生かして得意分野や個性を発揮し、授業を行うということは重要であり、大変期待している。教員自身が個性を伸ばし、それを生かして子どもたちにとってどのような教育が出来るのか考えてほしい。

### 【教育委員】

主要施策5「学びのセーフティネットの構築」の「体力向上の取組」が遅れているのではないかと考える。「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト」で特色のある取組に対する表彰等を行っているが、県内の全生徒、児童を対象とした取組が更に必要ではないかと考える。

平成30年度に全国体力運動能力調査における全国平均を上回ることや、平成32年度には肥満傾向児の出現率を全国並にするという目標を掲げてはいるが、具体的な取組がまだ足りないと思う。以前、会津方部で行われていた「ヘルシースマイル事業」においても、避難地域でないにも関わらず、体力や肥満傾向が全国平均より劣っているという結果が出ており、実際、学校の入学式で子どもたちを見ていると、肥満の割合が増えているように感じた。

健康な体があってこそ学力向上につながると思うので、こうした体力、運動習慣、さらには、食育などの取組はしっかりと対応していく必要がある。

「教員の育成指標」については、経験年数に応じた指標が作られるということだが、教員の資質向上のためにも、是非進めていただきたい。

### 【教育委員】

この「頑張る学校応援プラン」は、5つの主要施策それぞれが深みのある内容になっており、これを教育委員会として提示できたことは、県の教育行政にとって大きなプラスになると感じている。

特に、これまで根性論などによる指導が行われてきた教育界に「スタンダード」という考え方を取り入れたことは、大きな意味があると思う。

主要施策2の「教員の指導力、学校のチーム力の最大化」について、私立と公立、それぞれの現場を見て感じた違いは、私立には明確な建学の精神があるということ。「お預かりしたお子さんを、このように教育して、学力をここまで向上させます」というような、コミットメント力がある。公立の学校にもこのような考え方は必要だと考えており、こうした取組は教員の指導力向上にもつながっていく。

また、公立、私立ともに、校長の強いリーダーシップの下、具体的な達成目標を示し、戦略的に取組を進めることが求められていると思う。

そうした中、今回のプランでは、副校長、主幹教諭を設置することとした。これにより、校長の権限を一定程度、副校長に委任することや、主幹教諭による教員の指導力向上に向けた取組等、戦略的な取組が可能となり、教員が児童生徒に向き合う時間が拡充するなど、大きなメリットがあると考えます。

このように「頑張る学校応援プラン」は、的を得た政策であると評価している。

#### 【知事】

委員の皆さんそれぞれから、御意見を頂いた。これらを踏まえ、教育長から感想を。

#### 【教育長】

知事が「挑戦」という言葉を掲げて、県政のトップに立って取り組まれている中で、教育委員会としても挑戦をしていこうという思いで、このプランを策定した。現時点において、いくつか実現出来た事業もあり、順調に動き始めたと感じている。今後、取組を進めていく上で大きな課題となってくるのが、校長を始め、現場の教員一人一人に、プランの考えを共有していくことだと思う。また、もう一つの課題は、多忙化解消。非常に難しい課題だが、教員の皆さんの苦労も共有しながら、進めていきたい。

皆様から頂いた御意見について、学力向上に関しては、秋田県、福井県に教員を派遣して、授業方法等の研究を行った。例えば、福井県では、教員同士の打合せや会議をかなり綿密に行っており、そうした取組を、本県の教員同士で共有し、また、パイロット校で実践しながら、福島県のものとして取り入れていくこととしている。

体力向上についても仰るとおりで、非常に重要だと考えている。震災直後に比べれば、だいぶ回復してきたが、肥満に関しては、放射線に対する不安から運動不足になったことが大きな要因と考えられる一方、通学にスクールバスを利用することで、歩かなくなったことが影響しているとの話も聞いており、そういったことも含めて、対策を考えていかなければならないと思う。

また、学力向上、体力向上に向けた取組はもちろん重要だが、今、懸念しているのは、人間関係が希薄な中で子どもたちが育っているのではないかということ。昔に比べると、親や教員を始め、大人との関わりが数少ない中で育っていると感じる。我々の頃は、お使いをする時もお店の人と会話をしながら買い物をするという時代だったが、今は、コンビニで何の会話もなく、お使いが出来てしまう。これまでの会議においても委員からお話を頂いているとおおり、福島の子どもたちに必要なのは「志」を育むこと。そのためにも、大人、地域との関わりを増やし、様々な経験を積むことが大事であると考えており、「地域と共にある学校」の取組をしっかり進めていきたい。

プランの取組はスタートしたばかり。道のりは長いですが、教育庁一丸となって取り組んでいくので、引き続き、委員の皆様の御協力をお願いしたい。

#### 【知事】

「頑張る学校応援プラン」の期間は平成29年度から32年度の4年間であり、

今年度が正にスタートの年。この一年間の取組が非常に重要であり、具体的な形、成果を上げていくことが大切。教育委員会においては、委員の皆さんや、外部の方からの御意見等も踏まえながら、このプランがより良いものとなるよう、取組を進めていただきたいと思います。

#### ＜ 福島イノベーション・コースト構想を支える人材の育成について ＞

##### 【知事】

続いて、議題2に移っていききたいと思います。

議題2は、「福島イノベーション・コースト構想を支える人材の育成」について。先週、国において、福島イノベーション・コースト構想関係閣僚会議が開催され、その場で安倍総理が次のように述べられた。「本構想は福島復興の切り札。全閣僚が復興大臣という意識を改めて確認し、政府一体となって構想の実現に全力を尽くす。」正に国家プロジェクトとして動き出したこの構想を実現させて、世界に誇れる福島の復興を成し遂げるために必要なもの、それは「人材の育成」である。そこで、これらに対して教育庁がどのような取組をしているか説明の後に、意見交換を行いたいと思う。

－ 高校教育課長から資料2に基づき説明後、以下のとおり、意見交換 －

##### 【教育委員】

イノベーション・コースト構想に関しては、私も、これまで深く関わってきた。震災という試練を乗り越えて、高い志を持った福島子どもたちが、立派に育ち、社会に出て行くために、我々大人は何が出来るのかというところに、この構想の大きな出発点があるような気がする。浜通り地域を中心に新たな産業を興していかなければならないということは以前から考えていたことであり、そのため、これまでも様々な研究機関の誘致にも取り組み、その成果が現れてきていると感じる。

この構想には、私自信も相当な期待を持っているが、実現していくために重要なことは、やはりキャリア教育にあると思う。これらを通して、仕事の大切さや苦労を学生の頃から理解し、モチベーションを高めていくということが大事。

私は、震災という厳しい状況を経験したからこそ、大きな夢や志を持つことが出来ると思っている。我々大人には、それをしっかりと応援する責任と義務があると考えており、そうした中で、子どもたちには、高い倫理観が生まれてくると思う。こうしたことは、他県にはないものであり、福島ならではの教育の象徴だというふうに捉えている。

磐城高校の1年生320名、全員にいわき商工会議所の会員事業所で職場体験をしてもらったが、その結果に先生方は大変驚いていた。「社長は、こんなところで困っているんだ。」「ここにこんな課題があったんだ。」子どもたちの言葉に、先生方は、職場体験を通して、本当に深い学びを得ることが出来たと言っていた。こうした体験がモチベーションとなり、勉学にもつながっていくと考えている。

さらに、こういう夢を叶えたい、こういう職業に就きたいから、将来はいわきに、福島県に戻ってこようという、好循環になっていくと思う。

### 【教育委員】

私も、キャリア教育は重要だと思っている。ただ、インターンシップは、就職を希望する生徒のみを対象としており、進学を希望する生徒は実施していないようである。実際に働いてみて、自分の理想と違うということで仕事を辞めてしまうなどという現状もあることから、進学を希望する生徒もインターンシップを経験すべきではないかと思う。

また、現在、南相馬市などでロボットテストフィールドの整備が進められているが、通常の職場体験だけではなく、イノベーション・コースト構想に係るこうした施設の見学や体験などを行うことも大切だと思う。現場では、作った物がどのように役立っているのか、どのような危険があるのかなどを、実際に体験して、興味を持ってもらうことが大事であり、そのような機会をなるべく多く設けていくことが必要。

また、イノベーション・コースト構想の実現のためには、専門的な技術を有する人材の育成が必要である。先日、福島高専の取組を伺う機会があったが、高専としての学校の専門色が強く出ていた。各高校でも学校の特色を生かした教育を更に進めていただきたい。

### 【教育委員】

資料を見ると、各学校が「トップリーダーの育成」や「工業分野の人材育成」、「農業分野の人材育成」にそれぞれ指定されているが、例えば、「農業分野」に指定されている学校の生徒の中からもリーダーを目指していく子がいると思う。

学校の特色を固定化し過ぎないように、柔軟に取り組むことも必要と感じている。

### 【教育委員】

私も、トップリーダーというのは、工業の分野でも農業の分野でも必要な存在であり、それぞれの分野の子どもたちに、自然と身に付いてくるものだと思う。

ロボット産業に関してだが、開発から製品化され、実際に使用するまでには、相当の時間がかかる。子どもたちには、開発に係る教育だけではなく、実際に使用するまでにはどのような関わりがあり、それを職業としてどのように生かしていけるかということまで、教育プログラムに入れていただくと非常に役に立つと思う。

教育プログラムの3つの柱の中に農業分野を入れていただき、感謝申し上げます。また、林業の役割も大切であり、是非、進めていただきたい。

今年度、初めてふたば未来学園高等学校で卒業生が出るが、そのうちの何人が地元に残るのか、進学した後、何人が地元に戻るかというようなことも注目している。卒業後の進路を見ながら生徒の育成を進めることも必要ではないか。

イノベーション・コースト構想に関連する産業は、今後ますます重要性が増していくと考えるが、先日出席した会議において、現場で働いている作業員が少なくなってきたという話があった。それは、線量の高い場所での仕事が多くなってきたため、ロボットに頼らなければならないというものであった。復興が進むにつれてそのような状況も多くなってくると思うが、先ほど委員からの話にもあった

とおりに、子どもたちに責任を負わせ過ぎず、楽しみながらも苦勞を感じて、勉強をしてほしいと思う。

**【知事】**

それぞれの委員からのお話を受けて、教育長から感想を。

**【教育長】**

イノベーション・コースト構想のための人材育成調査事業に関しては、以前、委員からも御意見を頂いたとおりに、プログラムの柱に「農業分野」を追加した。さらに、普通科の高校も対象として、調査を実施することとした。

3つの柱に係る名称や分け方について御意見を頂き、資料の内容で分かりづらい部分もあったかと思うが、御意見を参考にさせていただきながら、調査事業にしっかり取り組んでいきたい。

イノベーション・コースト構想を支える人材の育成については、学校だけで取り組めるものではない。産業界や大学等の研究機関、さらには、地域の方々とも連携して取り組むことが重要。目の前にある課題に子どもたちと一緒に頑張って向き合い、構想の実現に取り組んでいくことで、将来の志が芽生え、福島に戻ってこようという、好循環につながっていくのだと思う。

また、高等学校だけではなく、義務教育の段階から関心を持ってもらえるような取組や、義務教育で行うキャリア教育もあると思うので、併せて進めていきたい。

**【知事】**

このイノベーション・コースト構想は、正にこれから創り上げていく大プロジェクト。子どもたち自身がこうした取組に関心を持てるように、いわき商工会議所が実施した職場体験など、具体的に関わっていくことが大切である。

また、3つの柱があるが、それぞれの分野で間違いなくトップリーダーは出てくる。工業分野でも農業分野でも、その分野をリードする人材がこの構想の中から出てくるということは確実なものだと考えており、それぞれの分野で誇りや自信を持って、歩める人材を育成していくことが重要だと思う。

一方で、過度な期待など、子どもたちに負担を掛け過ぎるというのは、バランスが良くない。委員は「楽しみながらも苦勞を感じて」という、すばらしい表現を使われたが、そのバランスが大事であり、本来、我々大人がやるべきことを子どもたちに担わせるということがあってはならない。このバランスも考えながら、事業を進めていかなければならないと思う。

いずれにしても、今回は調査事業であり、その先が重要となる。まず一年間、教育委員会において、しっかり人材育成調査を行い、その後、どのように実践につなげていくかということ、委員の皆さんの御意見を取り入れながら、進めていただければと思う。

＜ 学校教育審議会からの答申（県立高校改革）について ＞

**【知事】**

それでは次の報告事項に入っていきたいと思う。学校教育審議会からの答申について、説明をお願いします。

－ 県立高校改革室長から資料3-1について説明 －

**【知事】**

それでは、ただいまの説明について、御意見等あればお願いします。

**【教育長】**

補足だが、資料中4の「多様な学習内容の確保及び教育の質の向上」に「特色のある学校づくり」や「職業観の形成」などの記載があるが、高等学校の今後の在り方を見直していくに当たって、先ほど委員から話があったとおり、校長のリーダーシップの下に、各学校の特色を出していくという目標を明確に出していきたいと思う。

また、この資料にはないが、高等学校の入学試験について現在見直しを進めており、特色選抜など、新たな考え方も導入していくこととしている。入学試験を見直すことで中学校側の対応も変わることで、全体としての改善につながっていくと考えている。

こうした取組により、目標の明確化や特色化ということを進めていきたい。

**【知事】**

教育委員会においては、学校教育審議会の答申の趣旨を尊重するとともに、地域の方々の声を丁寧に伺いながら、引き続き、取り組んでいただきたいと思います。

**【知事】**

以上で本日の議題は全て終了した。これで本年度第1回目の総合教育会議を閉じる。

(3) 閉 会